

現在の主な課題はインフレ下での牛乳乳製品の内需回復 欧州委員会「牛乳乳製品市場観測サイト」2023年6月会合報告より

欧州委員会が開設している「牛乳乳製品市場観測サイト(Milk Market Observatory = MMO)」の経済委員会6月会合がビデオ会議方式で開かれた。同会合の報告書(*1)では、EUの近況として、①生乳生産量は昨年9月以降増加を続けていること、②庭先(牧場出荷)乳価は2023年に入り下落傾向あること、③乳製品価格は安定し、乳製品の在庫水準は増加中であること、④食品インフレは高止まりしていることなどを報告している。また、世界の近況として、主要乳製品輸出国・地域では、2023年に入り生乳生産が増加していることも報告している。資材やエネルギー等の投入コストは最近低下したものの、依然として高い水準のままであり、もし天候不順と乳価の下落が継続すれば、生乳生産を増産させることへの動機が弱まる可能性がある」と指摘している。現在の主な課題は、インフレの状況下で乳製品の内需を回復させることであるとしている。以下に報告書の要約を紹介する。(読みやすさを考慮し、Jミルクで小見出しなどを補った。)

MMO 経済委員会の第46回会合は、2023年6月27日に、以下のミルクサプライチェーンを構成する組織の専門家が参加してビデオ会議で開催された。

- COPA-COGECA (欧州農業組織委員会・農業協同組合委員会:生産者を代表)
- ECVC(ビア・カンペシーナの欧州組織)
- CEJA(欧州青年農業者協議会)
- EDA(欧州乳業協会:乳業者を代表)
- Eucolait(欧州乳製品輸出入・販売業者連合:乳製品貿易を代表)
- Eurocommerce(欧州商工会:小売業を代表)

会合でのプレゼンテーションと情報交換では、次の点が強調された。

EUの生乳生産量は昨年9月以降増加を続ける

EUの牛の生乳集荷量は2022年9月以降増加を続けている。2023年1~4月の生産量は前年同期比0.8%増加した。4月までに、ドイツ(+2.8%)、ベルギー(+4.3%)、オランダ

(+3.8%)、ポーランド(+1.6%)を含む13か国の加盟国が生乳出荷量の増加を報告した。他の主要生産国では、フランス(-1.9%)、イタリア(-2%)、スペイン(-0.6%)、アイルランド(-1.3%)で生乳出荷量が減少している。2023年1~4月のEU生乳生産量の推定値は、2022年に比べて19%、2021年に比べると70%高い。

2023年1~4月のEUの発酵乳、全粉乳、飲用乳の生産量は、それぞれ-0.7%、-0.7%、-0.5%の減少であった。その他の乳製品の生産量は、脱脂粉乳(+2%)、バター(+2.6%)、チーズ(+0.5%)、濃縮乳(+3.6%)、クリーム(+1.6%)のように増加した。

EUの庭先乳価は2023年に入り下落傾向

EUの平均庭先(牧場出荷)乳価は、2021年と2022年に急激に上昇した後、下落傾向にあり、2023年に入ってから約15%下落した。2023年4月には、5.4%下落(2023年3月比)の1キロ当たり47.5ユーロセントとなったが、依然として近年の水準を上回っている(2022

年4月比+2.8%、5年平均比+30%)。4月には2か国の加盟国(ラトビア、マルタ)でのみ上昇した。加盟国の2023年5月の推定では、さらに減少して1キロ当たり46.6ユーロセント(-2%)を指している。7か国の加盟国(マルタ、ドイツ、オランダ、ベルギー、アイルランド、リトアニア、ラトビア)では生乳価格が前年を下回った。

4月に集荷された生乳の4.1%が有機であり(23か国の加盟国の報告による)、その83%が5か国の加盟国(ドイツ、フランス、デンマーク、オーストリア、スウェーデン)からのものであった。価格プレミアム(割り増し分)は上昇している(4月の価格差は1キロ当たり6.8ユーロセント)。4か国の加盟国(ラトビア、エストニア、スロバキア、ルーマニア)では、有機生乳の価格は一般の生乳よりも低かった。

飼料コスト(穀物、菜種粕、大豆粕の混合物に基づく)は、過去6ヵ月で軟化した。依然として高い水準にある(現在は2021年12月の水準)。

EUの平均乳製品価格は安定し、乳製品の在庫水準は増加中

いくつかの乳製品のEU平均価格はここ数週間で安定し、あるいはわずかに上昇した。EUの脱脂粉乳価格は先月より+2.7%上昇し、現在、前年比で-38%と低い。バター価格は先月以降+2.1%上昇し、現在、前年比で-35%低く、5年平均より-2.6%低い。EUのホエイパウダー価格は先月より-6.2%と下落し、現在、前年より-47%低い。チーズ価格は、エメンタール(+0.8%)を除き先月から下落している。EUはオセアニアや米国と比較すると、最もバターの価格競争力がある輸出国である。オセアニアは全粉乳で、米国は脱脂粉乳とチェダーチ

ーズで最も価格競争力がある。

供給(生産量+輸入量)から需要(国内消費量+輸出量)を差し引いた残余乳製品量に基づくEU在庫レベルの評価では、脱脂粉乳の在庫量は増加し、1年前よりも高くなっているが、いまだ正常な水準と考えられる(生産量の増加と域内消費量の減少により約13万トン)。バターの在庫量は2022年11月以降増加しており、ここ数年よりも高く現在20万となっている。2023年に入り、チーズの在庫量は5万トン増加して31万トンの水準となっているが、チーズ市場は好調である。

世界の主要輸出国・地域の生乳生産量は2023年第1四半期に0.8%増加

2023年の最初の4ヵ月間、主要輸出国・地域(オーストラリア、EU、米国、英国、ニュージーランド、アルゼンチン、ウルグアイ)の生乳集荷量は全体で+0.8%増加した。生産量は2022年9月以降、特にニュージーランド、英国、米国、EUで急増してきたが、現在は減速中である。

2023年第1四半期の世界の乳製品輸出量(生乳換算量)は0.1%の微増となった。主要輸出国(EU、ニュージーランド、米国)の輸出シェアは、規模のより小さな輸出国と引き換えに増加した。乳製品の需要は、中国と東南アジアの落ち込みを中東・北アフリカ地域、メキシコ、ブラジルが補っているため、予想以上に堅調である。中国、メキシコ、インドネシア、アルジェリア、英国が昨年の輸入市場の上位5か国であった。EUの輸出はむしろ好調で、バターと脱脂粉乳が輸出の伸びを牽引している。中国、英国、アルジェリア、米国、インドネシアが、2023年第1四半期のEUの輸出先の上位5か国であった(シェア39%)。

EU の食品インフレは高止まり

食品インフレは高止まりしている。消費者が節約方法を探したり、お得なキャンペーンを積極的に利用したり、より安価な食品に切り替えたりすることで、購買習慣を変化させているため小売販売量は 2022 年以降減少している。消費者は有機製品や高品質／高価格商品の購入を減らしている。より健康的な製品を手に入れるために高い価格を支払うことを厭わない消費者は減っている。消費者はブランド品よりもプライベートブランド商品を選ぶ。小売価格が農産物価格の変動に追随するには 6～12 ヶ月がかかる。2023 年下半期には価格が軟化し、販売量が増加するかもしれない。

meeting report – 29 June 2023. European Commission.

(資料閲覧:2023 年 6 月 30 日)

(担当:Jミルク 国際グループ 新 光一郎)

EU の生乳出荷量は 2023 年下半期に減少する可能性も

欧州委員会は、最新の短期的な EU 乳製品市場見通しを発表した。EU の生乳出荷量は 2023 年下半期に減少する可能性がある。牛の屠殺の遅れが今後数ヶ月で加速するかもしれない。これまでのところ、全般的に天候は 2022 年ほどにはマイナス要因になっていないものの、天候は生産量にさらなる減少圧力を加える可能性がある。

投入コストは最近低下したものの、依然として高い水準のままである。もし天候不順と乳価の下落が継続すれば、増産への動機が弱まる可能性がある。国の環境対策が生乳生産にどのような影響を与えるかは不透明である。現在の主な課題は、インフレの状況下で乳製品の内需を回復させることである。

参考資料:

- 1) https://agriculture.ec.europa.eu/system/files/2023-06/mmo-report-2023-6-27_en.pdf MMO economic board